

別添様式

都道府県、政令市名	秋田県		
基金の名称	秋田県環境保全基金		
基金の目的	環境の保全を図るため、地域住民等に対する地域の環境保全に関する知識の普及、地域の環境保全のための実践活動の支援等地域における環境保全活動に関する事業に充てる資金として設置する。		
27年度末基金総額(a=b+c+d+e)	369,644,701	26年度末基金総額	386,181,919
うち国費相当額(b)	184,822,350	▲27年度基金執行額	16,672,659
うち地方負担相当額(c)	184,822,351	27年度基金運用益	135,441
うち運用益(国費相当分)(d)	0	27年度その他造成額	0
うち運用益(地方負担相当分)(e)	0		

基金事業の概要及び執行額の内訳

1 あきたエコ教育推進事業 環境あきたリーダー育成事業(あきたエコマイスターネットワーク活用促進)	
執行額	589千円(うち基金充当額589千円)
目的	環境保全に関わる情報を県民に発信するとともに、環境保全を全体的な視点から考え指導することができる地域の環境保全活動のリーダーとなる人材を育成する「環境あきた県民塾」を修了し、「あきたエコマイスター」に登録した県民の活動を支援することにより、県民の環境保全意識の醸成を図る。
期間	平成27年4月～平成28年2月
実績	(1) あきたエコマイスター県北協議会 実施回数:8回 延べ参加人数:145人 長木川・北秋田市・能代市クリーンアップ(4月19日、計20名)、ニツ井地区クリーンアップ(4月26日、3名)、講演会「気象の知識を暮らしの中へ」(5月24日、19名)、環境体験講座「廃油を使った石けん作り」(6月7日、17名)、大館市エコフェア出展「秋田杉廃材を使ったマスコット作り・外熱エンジンによる発電でLED点灯」(7月10日～12日、50名)、ごみナビボランティア参加(7月12日、5名)、小友沼自然観察会(10月24日17名)、環境体験講座「生ごみ消滅作戦」(11月8日、14名) (2) あきたエコマイスター県央協議会 実施回数:7回 延べ参加人数:333人 環境問題に関するスキルアップ講座・講演「これまでの県央協議会の環境改善活動事例について」(4月18日、34名)、千秋公園のクリーンアップ作戦(5月17日、22名)、エコの森づくり学習会(6月6日、36名)、「作って満足、ぼくとわたしの夏の工作～木の宝物づくり～」(8月1日、66名)、第15回あきたエコ&リサイクルフェスティバルへの出展(9月5日・6日、100名)、ゴミのポイ捨てを考える会(10月17日、25名)、秋田県読書フェスタでのイベント実施「豊かな恵の再発見～木の実と小枝で夢工作」(10月25日、50名) (3) あきたエコマイスター県南協議会 実施回数:5回 延べ参加人数:102人 横手川付近清掃活動(6月7日、30名)、自然観察会(9月6日、30名)、南部ハーモニープラザまつり出展(9月12日、11名)、温暖化についての講演会(11月28日、15名)、大仙・美郷クリーンセンター等の施設見学会(12月10日、16名)
公募状況	なし

2 あきたエコ教育推進事業 環境あきたリーダー育成事業(環境大賞)	
執行額	128千円(うち基金充当額128千円)
目的	環境保全に関する実践活動が他の模範となる個人又は団体を表彰し、その活動事例を広く県民に紹介することにより、県民の環境保全に関する自主的な取組を促進する。
期間	平成27年5月～平成27年9月
実績	<p>個人又は団体が秋田県内で実践している環境保全活動の事例を募集したところ、5部門に21件の応募があり、選考委員会で5団体を環境大賞受賞者に選定した。</p> <p>9月のあきたエコ&リサイクルフェスティバルオープニングにおいて行った表彰式では、賞状並びに副賞(楯)を授与したほか、受賞者の取組を紹介したパネル展示等も行い、その活動を広く県民に紹介するとともに、県民の自主的な取り組みの促進を図ることができた。</p> <p>・応募部門内訳 地球温暖化防止部門4件、循環型社会形成部門4件、環境教育・学習部門3件、環境美化部門6件、環境保全部門4件</p> <p>・平成27年度環境大賞受賞者 地球温暖化防止部門：海と川と空の塾(八峰町) 「世界自然遺産白神山地周辺にブナの森を復活させる活動」 循環型社会形成部門：コンポスト見なおし隊(能代市) 「生ごみ堆肥化普及啓発活動」 環境教育・学習部門： ナトゥーア・秋田(秋田市) 「自然に親しむことを通じての自然学習及び自然保護の啓発」 環境保全部門： ・草木谷を守る会(湯上市) 「八郎湖と草木谷と人を結ぶ『谷津田再生プロジェクト』」 ・あきたエコマイスター県央協議会(秋田市) 「古里環境資源の再生～道路や里山、そして小川にも優しい環境づくり～」</p>
公募状況	<p>・公募要領名 平成27年度環境大賞募集要領</p> <p>・審査基準 評価項目は、環境保全効果性、県民普及性、地域との連携性(活動の広がり性)、独創性(アイデア性)、継続性の5つがあり、それぞれ5段階で評価する。</p> <p>・審査体制 環境大賞選考委員を大学教授など外部委員3名、内部委員1名に委嘱し、選考委員会において選考した。</p>
3 あきたエコ教育推進事業 こども環境教育支援事業(こどもエコクラブ支援)	
執行額	318千円(うち基金充当額259千円)
目的	こどもエコクラブの登録人数の増加を図るとともに、活動意欲を高揚させる。
期間	平成27年4月～平成28年3月
実績	<p>(1)こどもエコクラブグッズの提供 こどもエコクラブバッジ、シャープペンシルを新規登録者に配布するため購入した。</p> <p>(2)こどもエコクラブ活動報告集の作成 平成27年度に登録されているこどもエコクラブからの活動報告をとりまとめ、こどもエコクラブ活動報告集2015を1,000部作成し、こどもエコクラブ、小・中学校、幼稚園等へ送付した。</p>
公募状況	なし

4 あきたエコ教育推進事業 こども環境教育支援事業(学校環境教育支援)	
執行額	1,429千円(うち基金充当額1,374千円)
目的	学校における環境教育・環境学習の推進と充実を図る。
期間	平成27年4月～平成28年3月
実績	<p>・環境教育支援校への物品の提供 各市町村教育委員会に推薦を依頼し、能代市立第四小学校、秋田市立太平小学校、潟上市立飯田川小学校、由利本荘市立西目小学校、にかほ市立平沢小学校の5校を環境教育支援校に指定した。各校から希望のあった環境教育・環境学習に係る物品を提供し、環境学習の支援を行った。</p> <p>(2)北東北三県環境教材の作成 平成26年度に秋田県、青森県、岩手県が、教師へのアンケート結果等をもとに共同で全面改訂した環境学習教材「北東北三県共通環境ワークブック」について、バインダー式教材とパンフレット形式教材を印刷し、県内の小学5年生及び小中学校に配布した。(バインダー式教材300部、パンフレット形式教材10,000部)</p>
公募状況	平成27年度環境教育支援校実施要領
5 あきたエコ教育推進事業 こども環境教育支援事業(あきたの環境を考える体験学習)	
執行額	304千円(うち基金充当額298千円)
目的	県民に対し、秋田の豊かな自然環境に触れる機会や、環境保全を図りながら活動を行う企業・事業所を見学する機会を設けることで、素晴らしい秋田の環境を後世に引き継ぐ意識を醸成する。
期間	第1回 平成27年7月30日、第2回 平成27年8月19日
実績	<p>・第1回「電気のゆくえ」7月30日(木) 参加者:湯沢・雄勝地区の親19名、子21名 計40名 秋田国見山第一風力発電所と秋田火力発電所を見学した。作られた電気が家庭に届くまでのしくみと、発電施設における環境配慮について学んだ。電気を作る側の環境配慮の努力を知ること、電気を無駄なく上手に使い秋田の環境を守っていかうとする意識を高めた。</p> <p>・第2回「ごみのゆくえ」8月19日(水) 参加者:中央地区の親21名、子23名 計44名 廃家電や廃ビン、廃木材などのリサイクル処理施設を見学した。ごみを再利用することがコスト削減や環境保全につながることに気づき、環境に配慮したものの使い方や再利用を意識したごみの出し方を実践しようとする意識を高めた。</p>
公募状況	参加募集リーフレット
6 八郎湖「わがみずうみ」創生事業 湖沼水質保全計画推進事業(八郎湖環境学習推進)	
執行額	1,135千円(うち基金充当額1,135千円)
目的	県がこれまで実施してきた支援事業やネットワーク構築の取組により、八郎湖流域での民間活動団体による自然再生活動が活性化し、地域に根ざした活動として定着しつつある。こうした活動を持続させるとともに、子どもたちを対象とした環境学習の継続的な実施により、八郎湖の水質保全対策の意義や重要性について流域住民から理解してもらい、協働活動等の取り組みへの気運を醸成する。
期間	平成27年4月～平成28年3月
実績	<p>・環八郎湖環境学習推進事業 八郎湖流域の子供たちに対して環境学習や出前授業を実施する。 ・メニュー:八郎湖野外観察、水草の植え付け、アオコとミジンコ、水の旅 等 ・出前授業 22回実施 ・こども交流会 1回実施 ・水生生物調査 簡易水質検査器具等購入。八郎湖流域の小学校6校で実施。 ・環境副読本「みんなの八郎湖」 1,000部作成。八郎湖流域の小学5年生全員に配付。</p>
公募状況	なし

7 地球温暖化総合対策事業 県民総参加実行事業(エコドライブ推進事業)	
執行額	140千円(うち基金充当額140千円)
目的	自動車から排出されるCO2削減のため、エコドライブを推進することとし、講習会の開催や事業所での取組を支援する。
期間	平成27年5月～11月
実績	<p>○エコドライブ実技講習会 県民に対して、エコドライブ技術を指導するため、5月23日、10月3日及び10月6日に開催し、44人が参加した。</p> <p>○エコドライブ普及啓発 あきたエコ&リサイクルフェスティバル(9月5日～6日、来場者約23,000人)に、エコドライブ体験ブースを出展した。</p> <p>○エコドライブ宣言事業所登録制度の運用 エコドライブステッカーを300枚作成し、宣言事業所へ配布した。</p>
公募状況	なし
8 地球温暖化総合対策事業 民生家庭部門温暖化対策事業(家庭の省エネチャレンジ)	
執行額	775千円(うち基金充当額775千円)
目的	県民の地球温暖化に関する意識の醸成と活動の推進を図るため、県民参加型の省エネに関するキャンペーン(家庭向け・児童向け)を実施する。
期間	平成27年7月～平成28年2月
実績	<p>○省エネチャレンジキャンペーン(家庭向け)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季(7月～9月に省エネ実施、10月中に取組結果報告) 実践結果報告者…103世帯 ・冬季(12月～2月に省エネ実施、2月16日～2月29日に取組結果報告) 実践結果報告者…98世帯 <p>○省エネ大作戦(児童向け)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季(夏休み期間中、任意の7日間省エネ実施、夏休み終了後に取組結果報告) 参加児童数…100名 ・冬季(冬休み期間中、任意の7日間省エネ実施、冬休み終了後に取組結果報告) 参加児童数…317名
公募状況	キャンペーン周知リーフレット
9 地球温暖化総合対策事業 民生家庭部門温暖化対策事業(温暖化対策人材育成)	
執行額	5,110千円(うち基金充当額5,110千円)
目的	県内各地で省エネなどの環境保全活動を実践している地球温暖化防止活動推進員等の育成や活用を通じて、地域の環境活動を推進し、県民の地球温暖化に関する意識の醸成を図る。
期間	平成27年7月～平成28年3月 研修会:6回開催、視察研修会:3回開催、セミナー:1回開催、情報紙:3回発行)
実績	<p>○研修会 新規推進員の基礎研修、分野別研修、実践研修などを県内6箇所で開催し、110名が参加した。</p> <p>○視察研修会 推進員等のスキルアップを図るため、県内3地域で新エネルギーやリサイクル施設等の視察を行い、延べ48名が参加した。</p> <p>○セミナー 県民や推進員等を対象に、地球温暖化の現状や、推進員による日常の省エネの取組を紹介し、42名が参加した。</p> <p>○情報紙の発行 地球温暖化の最新の知見、推進員の活動状況などを掲載した情報紙を3回(各2,000部)発行し、推進員、あきたエコマイスター、市町村等へ配布した。</p>
公募状況	なし

10 地球温暖化総合対策事業 地球温暖化対策推進計画等広報啓発事業(温暖化対策に関するリーフレットの作成等)	
執行額	300千円(うち基金充当額300千円)
目的	地球温暖化の現状や将来予測などについて、県民向けにわかりやすく説明したリーフレットを作成・配布することにより、条例や計画に位置づけている県民の地球温暖化防止に向けた具体的な行動を喚起し、県内における温室効果ガス排出量を削減する。
期間	平成27年10月～平成28年3月
実績	IPCC(気候変動政府間パネル)第5次評価報告書や、平成27年12月に気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21)において採択された「パリ協定」の内容を盛り込んだリーフレット「地球温暖化ってどうなってるの?」を10,000部作成し、一般県民や推進員等に配布した。
公募状況	なし
11 地球温暖化総合対策事業 あきた省エネ住宅普及促進協働事業	
執行額	389千円(うち基金充当額389千円)
目的	省エネ住宅の普及促進を図るため、住宅メーカー等と連携し、主に住宅の購入やリフォームを行う意思のある県民に対し、省エネ住宅に関する啓発を行う。
期間	通年
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 協定の締結 省エネ住宅の普及啓発に関する協定を、住宅メーカー7社と締結した。 ○ 住宅展示場等における普及啓発 省エネ住宅のポイントをまとめたリーフレット(6種×1,500枚)、クリアファイル(1,500枚)を作成し、2か所の住宅展示場にあるモデルハウス(全23棟)に設置した。 また、環境イベント等で活用するパネル用ポスター(10種×2枚)を作成した。
公募状況	なし
12 自然公園美化対策事業 自然公園美化対策(国立公園)	
執行額	361千円(うち基金充当額361千円)
目的	自然公園法第19条に基づく取組として、地元で清掃活動団体を形成して自然公園内の清掃活動を行い、自然公園内の清掃活動事業を行う清掃活動団体に対して、補助金を交付する。
期間	平成27年4月～平成28年3月
実績	十和田八幡平国立公園において3団体が6.7トンのゴミを回収した。 (内訳) ・一般社団法人十和田湖国立公園協会 1.9トン ・八幡平を美しくする会八幡平支部 3.5トン ・八幡平を美しくする会南八幡平支部 1.3トン
公募状況	なし

13 自然公園美化対策事業 自然公園美化対策(国定公園、県立自然公園)	
執行額	1,046千円(うち基金充当額1,046千円)
目的	自然公園法第19条及び秋田県立自然公園条例第13条に基づく取組として、地元清掃活動団体を育成して自然公園内の清掃活動を行い、自然公園内の清掃活動事業を行う清掃活動団体に対し市町村が補助又は負担する費用について、補助金を交付する。
期間	平成27年4月～平成28年3月
実績	県内の国定公園3カ所、県立自然公園4カ所において、93.1トンのゴミを回収した。(内訳) ・にかほ市(鳥海国定公園を美しくする会)10トン ・湯沢市(湯沢市栗駒国定公園を美しくする会、雄勝自然を美しくする会、栗駒を美しくする会)7.5トン ・男鹿市(男鹿を美しくする会)61トン ・仙北市(田沢湖を美しくする会)9.1トン ・大仙市(真木真昼県立自然公園を美しくする会)4トン ・北秋田市(NPO法人森吉ネイチャー協会、県立自然公園森吉山を美しくする会)0.4トン ・大館市(田代岳を美しくする会)1.1トン
公募状況	なし
14 白神山地利活用推進事業 白神山地環境保全教育推進事業	
執行額	844千円(うち基金充当額770千円)
目的	次代を担う子どもたちに対する環境教育及び自然保護思想の啓発をを目的として、白神山地の自然に接する機会の少ない県央・県南地区の小学生(4～6年生)を対象とした自然体験教室(トレッキング、自然観察等)を開催する。
期間	平成27年7月～8月 計3回
実績	白神山地の岳岱自然観察教育林やニツ森等へのバスツアーを開催し、7月24日は35名、8月5日は21名、8月19日は32名の計88名が参加した。 バス車内や現地において、白神山地の自然や世界遺産登録の異議、保全の必要性等について解説したほか、トレッキング等の自然観察を通じて、白神山地の自然に親しんだ。
公募状況	参加募集リーフレット
15 生物多様性保全強化事業 秋田県版レッドデータブック改訂事業	
執行額	4,060千円(うち基金充当額4,004千円)
目的	野生動植物の生息状況は常に変化しているため、絶滅危険性を表すレッドデータブックは定期的な見直しが必要となる。 そのため、現在の生息状況を反映して改訂した秋田県版レッドデータブックを以下の用途で利活用が図られるように製本し、環境、開発、教育等の関係機関に配布を行う。 ① 地域環境保全活動の基本方針等の策定に活用するための基礎資料 ② 環境教育の場で次代を担う子供たちに自然保護思想の啓発を行うための副読本 ③ 地域環境保全に対する意識の高揚を図るための市町村等が行う社会教育講座等での講座資料
期間	平成27年4月～平成28年3月
実績	○ 改訂検討委員会の開催(鳥類・淡水魚類・昆虫類・両生爬虫類・陸産貝類 計15回) ○ 鳥類、両生類、爬虫類、淡水魚類、陸産貝類RDB解説文執筆 ○ 昆虫類現地調査 コウチュウ目、チョウ目、トンボ目、トビケラ目等の県内に生息する希少種の調査を85カ所、71人日で実施。 ○ 秋田県版レッドデータブック動物編1(鳥類・淡水魚類・両生類・爬虫類・陸産貝類)の製本(800部)及び関係機関への配布
公募状況	なし